

## 『どうする家康』と『出世の街』

2023年の大河ドラマは、徳川家康公を主人公にした「どうする家康」です。2017年の「おんな城主直虎」、2019年の「いだてん」に続いて、再び浜松が脚光を浴びそうです。

タイトルが一風変わっています。公を描くのが狙いとのこと。従来の家康公像といえば、織田信長公、豊臣秀吉公が築き上げた天下を横取りした古狸といったイメージが強かったのですが、このドラマでは、

1人の弱く繊細な若者が、大名の子として生まれた宿命を背負い、必死に悩み、もがき、苦しみながら乱世を生き抜き、やがて戦国の世を終わらせ、太平の世を築く「奇跡と希望」

の物語になるそうです。今、最も期待されている脚本家の1人である古沢良太氏が、原作がない中で脚本を書き上げる異色の作品です。また家康公役も、人気アイドルグループ「嵐」の松本潤さんですので、従来の家康公像とは全く異なった作風になると思います。

作品のイメージからすると、浜松が取り組んでいる「出世の街」と非常に親和性がありそうです。「出世の街」の取り組みは、浜松城が「出世城」と呼ばれていることに、私が着目したのが始まりです。調べてみると、家康公が29歳から45歳という人生で一番重要な時期を浜松で過ごし、この間に五万石の小大名から百万石の大大名に飛躍し、天下平定の礎を築

いたことが分かりました。また明治以降も、山葉寅楠氏、鈴木道雄氏、本田宗一郎氏など、世界的な経営者を次々と輩出したことから、浜松はまさにドラマのコンセプトである「奇跡と希望」に満ち溢れた「出世運」の根付く街であると感じたからです。ここから浜松のシンボルである市のキャラクター、「出世大名家康くん」も生まれたわけですね。

私のイメージする「出世」は、高い地位に上りつめるという成功のことだけを指すのではなく、「大きな志や思い」を実現するという意味も含みます。徳川家康公にも、「厭離穢土 欣求浄土」の旗に象徴されるように、戦国の世を終わらせ、太平の世を築きたいという大きな志

がありました。決して権力としての天下を手中にすることだけが、目的だったわけではありません。時代に翻弄されながらもその大志を実現し、徳川280年の平和な時代を開いたという点が、家康公の真骨頂であり、「どうする家康」のテーマでもあると思います。

従って、ドラマと最も親和性の高い街はどこかと問われれば、生誕の地「岡崎」でもなく、隠居の地として選んだ「静岡」でもなく、必死に悩み、もがき、苦しみながら大きく成長を遂げた地「浜松」になるのではないのでしょうか。この好機を生かして「浜松」をしっかりとPRし、地域活性化を進めていきたいと思えます。



## はままつ もののしりQ



浜松市内にある文化財は全部で何件あるでしょうか？  
(ヒント:4ページをチェック)

- ア：97件
- イ：971件
- ウ：9710件

クイズの正解者の中から  
抽選で5組10人に

### 浜松市博物館 ペア招待券

をプレゼントします

市ホームページの応募フォーム  
または、はがきで広聴広報課へ

### 応募はがき

#### 【記載事項】

- クイズの答え
- 郵便番号、住所、氏名、年代
- 電話番号
- (任意)広報はままつに関するご意見、ご感想、広報はままつで取り上げてほしいテーマ

#### 【宛先】

〒430-8652 広聴広報課  
(郵便番号と課名のみで届きます)

8月31日(火)締切(消印有効)

当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。



市ホームページからも  
応募できます！  
【応募期間】  
8月5日～31日

市HP 広報はままつ 検索